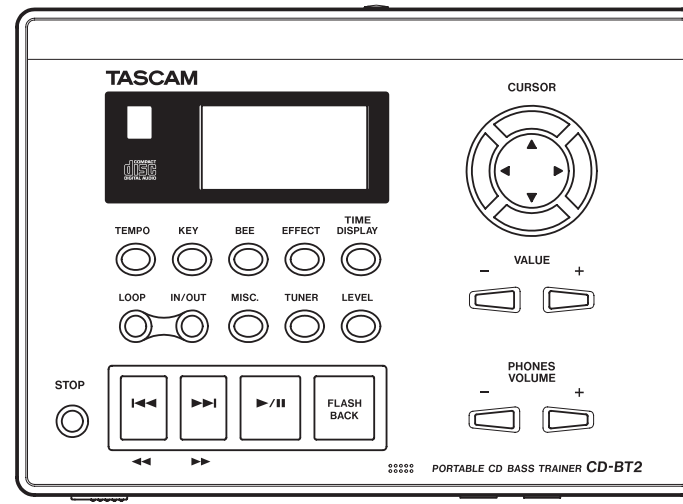
D00997201A

TASCAM
TEAC Professional Division

CD-BT2

Portable CD Bass Trainer



取扱説明書

安全にお使いいただくために

この取扱説明書への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

表示の意味

⚠ 警告	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	△記号は注意（警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。
	⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。 図の中に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。 図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

⚠警告

	万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店またはティアック修理センターに修理をご依頼ください。
	万一、機器の内部に異物や水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。

この機器の上に花びんや水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

本体を絶対に分解しないでください。感電の原因となります。内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センターにご依頼ください。

この機器を改造しないでください。火災・感電の原因となります。

万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店またはティアック修理センターにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

船舶などの直流（DC 電源）には接続しないで下さい。火災の原因になります。

レーザー光源をのぞき込まないで下さい。レーザー光が目に当たると視力障害を起こすことがあります。

⚠注意

オーディオ機器、スピーカー等の機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを使用してください。

電源を入れる前には音量を最小にしてください。突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないように注意して下さい。　耳を刺激する様な大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪影響を与えることがあります。

次のような場所に置かないでください。火災、感電やけがの原因となることがあります。
・調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所
・湿気やほこりの多い場所
・ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所

移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、機器間の接続コードなど外部の接続コードを外してから行なってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

この機器に、ACアダプターを接続する場合、専用のACアダプター（PS-P520）をご使用ください。それ以外の物を使用すると故障、火災、感電の原因となります。

目次

安全にお使いいただくために 2

はじめに 6
本機の特長 6
本書の使い方 6
付属品 6
CD（コンパクトディスク）の取り扱い 7
結露について 8
製品のお手入れ 8
アフターサービス 8

クイックスタートガイド――使ってみよう 9
準備する 9
電源を入れる 9
CDを入れる 9
ヘッドホンをつなぐ 10
再生する 10
CDを再生する 10
音量を調節する 11
再生テンポを変える 11
ベースを演奏する 11
ベースをつなぐ 11
エフェクトを使う 11
CDに合わせてベースを弾く 12
電源を切る 12
すべての設定を元に戻す 12

電源について 13
電池で使用する 13
電池についての注意 13
電池残量表示 13
電池寿命 14
ACアダプターでの駆動 14
電源のオン／オフ 15

各部の名称と機能 16
操作部 16
前面 18
背面 18

接続する 19

画面の表示と操作 20
画面概要 20
TIME DISPLAY画面 20
その他の画面 21
設定操作の基本 22

CDを聴く 23
CDの基本再生 23
少しだけ戻す（フラッシュバック機能） 23
音量を調節する 24
テンポを変える 24
テンポに伴って音程を変える 24
音程だけを変える 25
ベースの音をコントロールする(BEE) 25
ループ再生する 26
プレイモードを選択する 26
リピート再生する 27

ベースを使う 28
入力レベルを調節する 28
モニター音量を調節する 28
CDを再生しながら演奏する 29
内蔵エフェクタを使う 29

その他の機能 32
メトロノームを使う 32
メトロノームを止めるには 32
チューナーを使う 33
AUTOモード 33
BASSモード 34
OSCモード 34
フットスイッチを使う 35
接続する 35
動作を設定する 35
極性を設定する 35

いろいろな設定を行なう 36
モノラルでモニターする 36
CD再生音とベース音を左右に分離する 36
時間表示を選ぶ 37
ディスプレイのコントラストを変える 37
すべての設定を元に戻す 37

仕様 38
CDプレーヤー 38
オーディオ入出力定格 38
一般 38
寸法図 38

エフェクタプリセット一覧 39

エフェクトモジュールのパラメーター覧 40

はじめに

本機は音程を変えずに再生スピードを変える、といった特殊な再生が可能なCDプレーヤーで、ベーシストの練習用として最適です。通常の再生で聴き取れないようなフレーズでも、本機を使ってゆっくり再生することにより、容易に聴き取ることができます。また本機にベースを接続して、再生する音楽に自分の演奏をミックスすることができます。

本機の特長

CDプレーヤー機能

- 音程を変えないで再生スピードを変えることが可能。
- 再生スピードを変えないで音程を変えることが可能。
- 再生時にベースの音の増強、低減、輪郭の強調が可能。
- 希望の範囲をループ再生可能。

その他の機能

- 電池（単三×４本）または別売のACアダプターで駆動。
- ベースエフェクタ内蔵。
- CDを聴きながらベースの演奏が可能。
- チューナー内蔵。
- メトロノーム内蔵。
- ヘッドホン端子およびライン出力端子を装備。
- フットスイッチを使った本体操作が可能。

本書の使い方

本書は「クイックスタートガイド編」と「本編」で構成されています。

クイックスタートガイド編には、準備からCDの基本再生のしかたやエフェクタの使い方までが、順を追って説明されています。CD-BT2をご購入後すぐに使ってみるときにご覧ください。ただし、ここではすべての機能は説明されていません。

本編には、各キー／つまみの働きや、CD-BT2の各機能の詳しい説明、仕様などが述べられています。細かい注意事項なども書かれていますので、ぜひご一読ください。

付属品

- 取扱説明書（本書）　1
- 保証書　1
- トラブルシューティング　1

付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合、当社までご連絡ください。

CD（コンパクトディスク）の取り扱い

本機では、CD-DA フォーマットのオーディオ CD を再生することができます。

（CD）マークのある市販のオーディオ CD（12cm/8cm）だけではなく、正しくオーディオが記録された CD-R および CD-RW ディスクの再生が可能です。

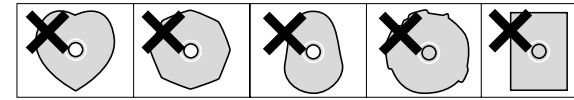
注 意

CD-R、CD-RW ディスクの場合、ディスクの品質、録音の状態によっては、正しく再生できない場合があります。

- ディスクは必ずレーベル面を上にしてセットしてください。
- ディスクをケースから取り出すときは、ケースの中心を押しながら、ディスクの外周部分を手ではさむように持ってください。

- 信号録音面に指紋やほこりがついたら、柔らかい布で内側中心から外側へ直角方向に軽く拭いてください。ディスクの汚れは音飛びの原因になりますので、いつもきれいに掃除して、ケースに入れて保管してください。

- ディスクをレコードクリーナー、帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどで拭かないでください。これらの化学薬品で表面が侵されることがあります。
- ディスクを直射日光が当たる場所や、高温多湿の場所には放置しないでください。そりなどの原因となります。
- ディスクのレーベル面に何か書き込むときは、油性のフェルトペンをお使いください。ボールペンなど、先端の固いペンを使うと、ディスク面を傷付けて再生できなくなる場合があります。
- ヒビが入ったディスクは使用しないでください。
- ハート形や八角形、名刺形などの特殊形状の CD は、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。



- CD を取りだす場合、CD のカバーを開けた直後にまだ CD が回転していることがあります。このような場合は、CD の回転が止まってから CD を取り出してください。
- CD-R や CD-RW ディスクの取り扱いについてご不明な点がある場合は、直接ディスクメーカーにお問合せください。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは約１～２時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。

化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコール等で拭かないでください。表面を痛める原因となります。

アフターサービス

- この製品には保証書を別途添付しております。保証書は所定事項を記入してお渡ししておりますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より１年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。ただし、業務用製品の場合は、保証期間内であっても使用 1,000 時間を超えた場合は有償になります。その他の詳細につきましては保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターなどにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生し修理を依頼される場合は、次の事項を確認の上、ティアック修理センターまでご連絡ください。
    - 型名、型番（TASCAM CD-BT2）
    - 製造番号（Serial No.）
    - 故障の症状（できるだけ詳しく）
    - お買い上げ年月日
    - お買い上げ販売店名

さっそく本機を使ってみましょう。準備からCDの再生、さらにベースを接続してCDと共演するまでの標準的な操作を紹介します。

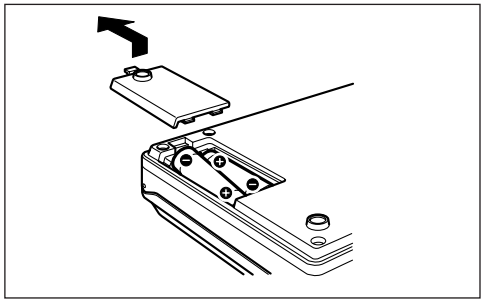
準備する

電源を入れる

本体裏側の電池ケースカバーを外し、ケースの⊕と⊖の表示に合わせて、市販の単３型電池を４本入れます。

メモ

電池は本機に付属していません。電池はニッケル水素電池、アルカリ乾電池をお奨めします。



電池をセットしたら、電源を入れます。

本体背面の**POWER**スイッチを約１秒押し続け、ディスプレイに“**TASCAM**”が表示されたら離します。数秒後に起動が完了し、**TIME DISPLAY**画面が表示されます。

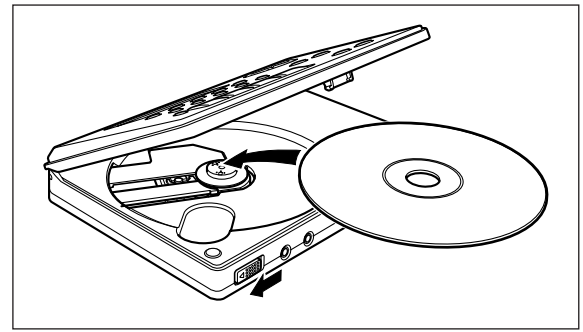
メモ

電源として、電池の代わりに別売のACアダプターを使うこともできます。その場合、本体背面の**DC IN 5V**端子にACアダプターを接続してください。

CDを入れる

本機では操作部全体がトレイのカバーを兼ねています。

本体前面の**OPEN**スイッチを左へスライドし、トレイカバー全体を開きます。CDをCDトレイに載せ、カチッと音がするまで上から押さえてセットしてください。セットした後、トレイカバーを元に戻します。



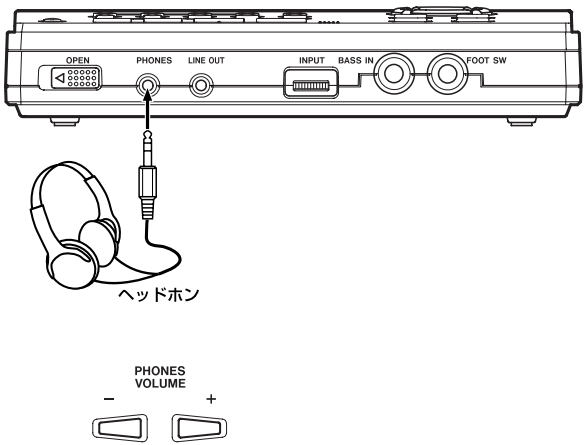
メモ

トレイカバーが開いた状態ではキー操作はできません。

ヘッドホンをつなぐ

本体前面のPHONES端子にヘッドホンを接続します。

接続する前に、操作部のPHONES VOLUME（−）キーを使ってヘッドホンボリュームを最小にしておきます。

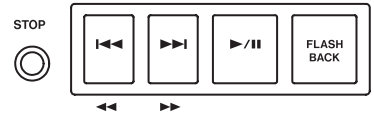


メモ

オーディオシステムやアンプ内蔵スピーカーでモニターする場合はLINE OUT端子を使います。接続には、接続する機器にあわせた別売りの接続ケーブルが必要です。

再生する

CDを再生する



▶/IIキーを押して再生を開始します。

再生開始後、お好みの音量にPHONES VOLUME（+、−）キーを使ってヘッドホンボリュームを調整します。

もう一度▶/IIキーを押すと、一時停止します。

STOPキーを押すと、停止します。

▶▶I／I◀◀キーを押すと、次／手前の曲頭にスキップします。

再生中に▶▶I／I◀◀キーを押したままにすると、早送り／早戻しサーチを行ないます。

再生中にFLASH BACKキーを押すと、3秒手前に戻ります。

メモ

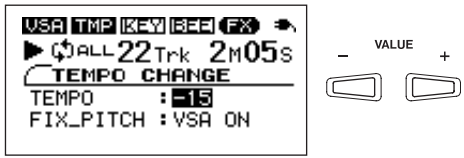
FLASH BACKキーを押したときに戻る秒数を変更することができます。（→23ページ「少しだけ戻す（フラッシュバック機能）」）

音量を調節する

PHONES VOLUME（+、−）キーを使って、ヘッドホンの音量を調節します。

再生テンポを変える

TEMPOキーを押してTEMPO CHANGE画面を表示し、下図のようにTEMPOの値が反転しているときに、VALUE（+、−）キーを使ってテンポ値を変えます。



メモ

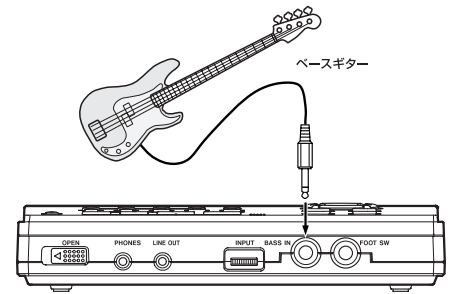
初期設定では、テンポを変えても音程が変わらないVSA機能がオンしています。

テンポに伴って音程が変わるようにするには、TEMPO CHANGE画面でCURSOR（▼）キーを使ってFIX_PITCHの値を反転し、VALUE（−）キーを使って“VSA OFF”を選択します。

ベースを演奏する

ベースをつなぐ

本体前面のBASS IN端子にベースを接続します。このとき、隣りにあるINPUTダイヤルを0にしておき、接続してから音量を上げていきます。



エフェクタを使う

ベース音にエフェクトをかけるには、EFFECTキーを押してEFFECTOR画面を表示し、下図のようにBANKの値が反転しているときに、VALUE（+、−）キーを使っていずれかのエフェクトバンク（01～10）を選択します。

エフェクトバンクを選択したら、エフェクタプリセットを選択します。**CURSOR**（▼）キーを使って**PRESET**の値を反転し、**VALUE**（+、−）キーを使ってプリセットを選択します。各プリセット毎に、異なるエフェクトモジュールが接続されています。（→39ページ「エフェクタプリセット一覧」）

エフェクトレベルを調節するには、**CURSOR**キー（▶）を使って以下のような画面にして、**VALUE**（+、−）キーを使います。

メモ

各エフェクタのパラメータ設定を変えることもできます。エフェクタについての詳細は「内蔵エフェクタを使う」（29ページ）をご覧ください。

CDに合わせてベースを弾く

CDを再生しながらベースを弾くと、CDとベース両方の音がヘッドホンから聞こえます。CDとベースの音のバランスを変えたいときは、**LEVEL**キーを押して**LEVEL**画面を表示し、**CURSOR**キー（▶）を1回押して**BASS LEVEL**の値を反転させ、**VALUE**（+、−）キーを使ってベース音量を調節します。（→ 28ページ「入力レベルを調節する」）

電源を切る

作業を終えたら、本体背面の**POWER**スイッチを約1秒押し続け、ディスプレイに“**TRAINER SERIES**”が表示されたら離します。

すべての設定を元に戻す

⏮、⏭キーを同時に押しながら本機の電源をオンすると、**INITIALIZE**画面が起動します。

起動後、画面の指示に従いPLAYキー（▶/❚❚）を押すことにより、エフェクトパラメータ、各種再生設定などをお買い上げいただいた状態に戻すことができます。

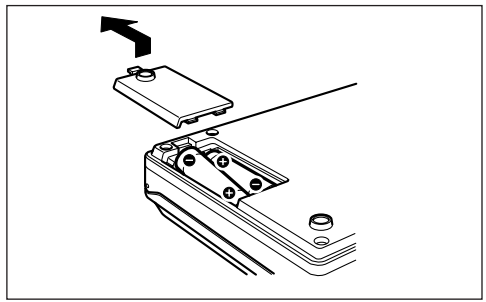
本機を市販の単３電池（４本）または専用のACアダプターで使用することができます。

メモ

電池、および専用アダプターは付属していません。

電池で使用する

本体裏側の電池ケースカバーを外し、ケースの⊕と⊖の表示に合わせて、単３型電池を４本入れてください。他のタイプの電池は使用しないでください。電池を入れたら、カバーを元に戻します。



電池についての注意

⚠ 警告

電池を誤って使用すると、液もれや破裂などの原因となることがあります。以下の注意をよく読んでご使用ください。

- 電池の⊕と⊖の向きを、電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しないでください。
- 充電式電池以外の電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間（１ヶ月以上）使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 電池を水や火の中に入れたり、分解したりしないでください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内に付いた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。

電池残量表示

電池での駆動時に、ディスプレイ右上の電池アイコンで、おおよその電池残量が表示されます。

電池の残量は十分にあります。

電池の残量が半分位になっています。

電池の残量が少なくなっています。

電池切れのため、まもなく本体の電源がオフになります。新しい電池と交換してください。

電池持続時間

- フル充電した新しいニッケル水素電池使用時：約6.5時間
- アルカリ乾電池使用時：約5時間

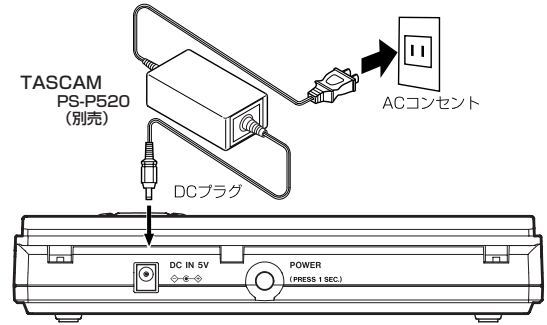
ご注意

- 本製品はCD再生テンポ可変機能やエフェクタなど、特殊な機能が備わっているため、一般のポータブルCDプレイヤーに比べて電池寿命が短くなっています。
- 電池寿命は、本機の動作条件（周囲の温度、湿度、各種特殊機能のオン/オフなど）によって変わります。
- ご使用の電池の残量が少ない場合、電池アイコンの残量表示が多いにもかかわらず、正常に動作しないことがあります。この場合は、電池を交換するか、またはACアダプターを使用してください。

ACアダプターでの駆動

ACアダプターはTASCAM PS-P520（別売）をご使用ください。他のアダプターは使わないでください。故障の原因になる場合があります。

ACアダプターのDCプラグを本機の**DC IN 5V**ジャックにつなぎ、ACプラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込んでください。



ACアダプター使用時はディスプレイ右上に“ ”が表示されます。

ご注意

- 本体を使用しない場合には、ACアダプターをコンセントから抜くようにしてください。

電源のオン／オフ

本機の電源をオンするには、本体背面のPOWERスイッチを１秒以上押し続けます。ディスプレイに以下の画面が表示されたら離してください。

数秒後に起動が完了し、TIME DISPLAY画面が表示されます。

電源をオフするには、本体背面のPOWERスイッチを２秒以上押し続けます。ディスプレイに以下の画面が表示されたら離してください。

ご注意

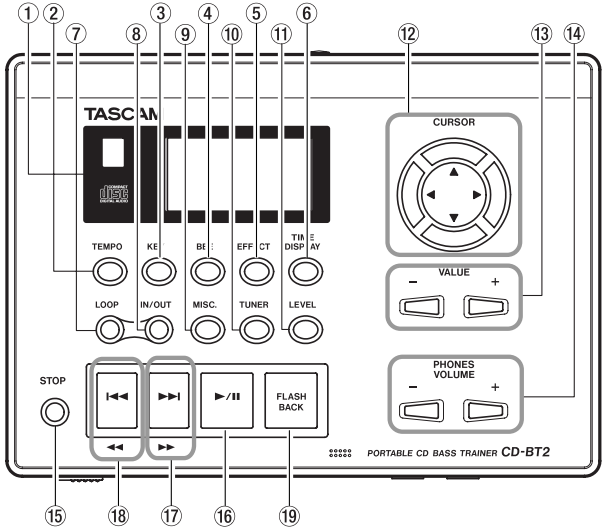
- 電源のオン／オフは必ずPOWERスイッチを使って行なってください。

  本体動作中に、電源アダプターを抜いたり電池を外して電源をオフにすると、設定した内容が保存されなかったり、あるいはすべての設定が初期化される可能性があります。

- 本機は電池でのご使用中にACアダプターの抜き差しを行うと、本体電源が一旦オフとなります。

各部の名称と機能

操作部



① ディスプレイ

CD再生時の情報、本機の設定などを表示します。

② TEMPOキー

このキーを押すとTEMPO CHANGE画面が表示されます。この画面では、再生テンポを変えたり、VSA機能のオン／オフを選択することができます。（→24ページ「テンポを変える」）（→24ページ「テンポに伴って音程を変える」）

③ KEYキー

このキーを押すとKEY & PITCH画面が表示されます。この画面では、再生音の音程（ピッチ）を変えることができます。（→25ページ「音程だけを変える」）

④ BEEキー

このキーを押すとB.E.E画面が表示されます。この画面では、BEE機能の設定を行ないます。（→25ページ「ベースの音をコントロールする」）

⑤ EFFECTキー

このキーを押すとEFFECTOR画面が表示されます。この画面では、ベースエフェクタの設定を行ないます。（→29ページ「内蔵エフェクタを使う」）

⑥ TIME DISPLAYキー

このキーを押すとTIME DISPLAY画面が表示されます。この画面には再生中のCDの情報などが表示されます。（→20ページ「TIME DISPLAY画面」）

⑦ LOOPキー

ループ再生やリピート再生機能のオン／オフを行ないます。IN、OUTポイントが設定されている場合はループ再生のオン／オフを行ない、IN、OUTポイントが設定されていない場合はリピート再生のオン／オフを行ないます。（→26ページ「ループ再生する」）（→27ページ「リピート再生する」）

⑧ IN/OUTキー

このキーを使って、ループ再生の始点（INポイント）と終点（OUTポイント）を登録します。（→26ページ「ループ再生する」）

⑨ MISC.キー

このキーを押すとSETUP & MISC.画面が表示されます。この画面では、メトロノーム機能の実行／設定や各種の設定を行ないます。

⑩ TUNERキー

このキーを押すとTUNER画面が表示されます。この画面では、楽器のチューニングを行ないます。（→33ページ「チューナーを使う」）

⑪ LEVELキー

このキーを押すとLEVEL画面が表示されます。この画面では、入力信号とCD再生の音量を個別に調節することができますので、お好みのミックスバランスにすることができます。（→28ページ「ベースを使う」）

⑫ CURSOR（▲、▼、◀、▶）キー

画面内で、設定項目を選択します。

⑬ VALUE（+、−）キー

画面内で、選択中の項目の値を変更します。

⑭ PHONES VOLUME（+、−）キー

ヘッドホンの音量を調節します。キーを押して音量を調節している間、PHONES VOLUME画面が表示されます。

⑮ STOPキー

CDの再生中や一時停止（PAUSE）中に押すと、停止状態になります。

⑯ ▶/❚❚キー

停止中や一時停止（ポーズ）中に押すと、再生を開始します。再生中に押すと、一時停止します。

⑰ ▶▶|、▶▶ キー

短く押すと、次の曲にスキップします。また再生中や一時停止中にこのキーを押したままにすると、早送りサーチを行ないます。停止中にこのキーを押したままにすると、トラック番号が自動的に増えます

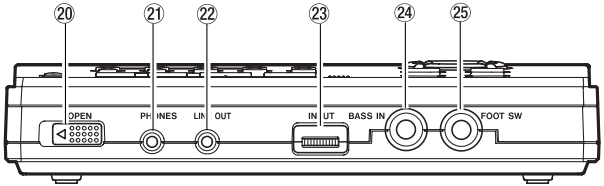
⑱ |◀◀、◀◀キー

短く押すと、手前の曲にスキップします。また再生中や一時停止中にこのキーを押したままにすると、早戻しサーチを行ないます。停止中にこのキーを押したままにすると、トラック番号が自動的に減ります。

⑲ FLASH BACKキー

再生中に押すと、あらかじめ設定した秒数だけ手前に戻って再生を行ないます。戻る秒数の設定はSETUP & MISC.画面で行ないます。（→23ページ「少しだけ戻す（フラッシュバック機能）」）

前面



⑳ OPENスイッチ

このスイッチを左へスライドすると操作部全体が開き、ディスクの装着／取り出しができる状態になります。

㉑ PHONES端子（ステレオミニジャック）

ヘッドホンを接続するための端子で、CD再生信号やBASS IN端子からの入力信号を出力します。

㉒ LINE OUT端子（ステレオミニジャック）

CD再生信号やBASS IN端子からの入力信号を出力します。オーディオシステムやアンプ内蔵スピーカーなどを接続します。

㉓ INPUTダイヤル

BASS IN端子の入力レベルを調整します。

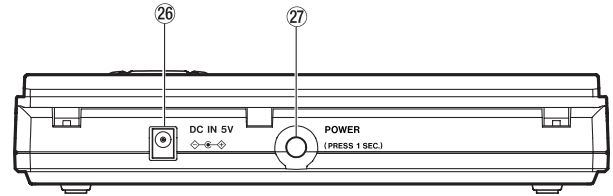
㉔ BASS IN端子（標準ホンジャック）

ベースを接続します。

㉕ FOOT SW端子（標準ホンジャック）

TASCAM RC-30Pなどの2極のフットスイッチを接続します。あらかじめSETUP & MISC.画面で設定した機能を、フットスイッチを使って実行することができます。

背面

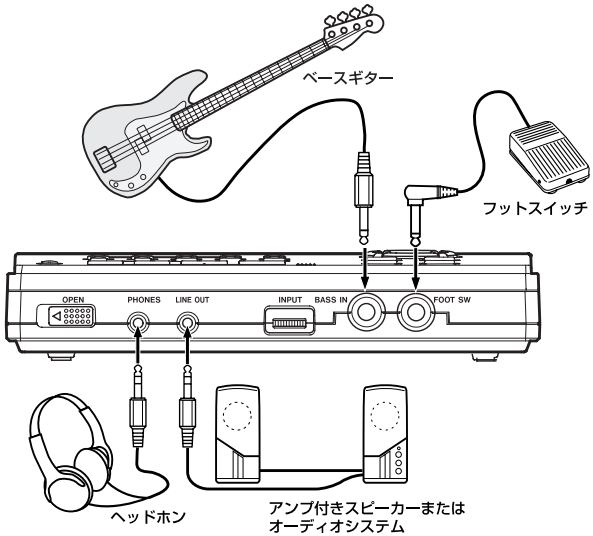


㉖ DC IN 5V端子POWERスイッチ

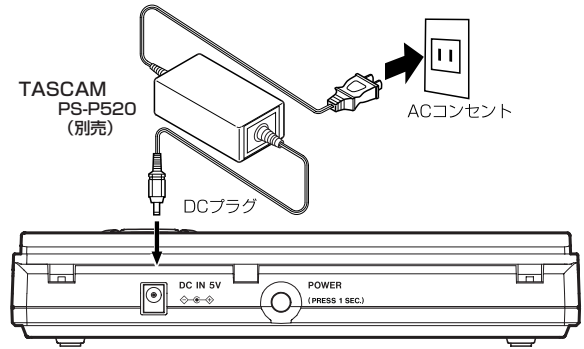
別売のACアダプター（TASCAM PS-P520）を接続します。

㉗ POWERスイッチ

電源のオン／オフを行ないます。1秒以上押し続けることにより、電源のオン/オフすることができます。



- PHONES端子←→ヘッドホン
- LINE OUT端子←→オーディオシステム／アンプ付スピーカーなど
  ＊必要に応じて変換ケーブルを使います。
- BASS IN端子←→ベース
- FOOT SW端子←→2極のフットスイッチ（TASCAM RC-30Pなど）



- DC IN 5V←→別売ACアダプター（PS-P520）

画面の表示と操作

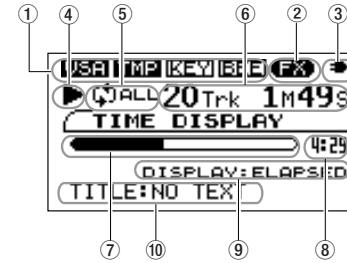
画面概要

本機のディスプレイには、機能に応じて以下の画面が表示されます。各画面を表示するには、それぞれの専用の呼び出しキーを押します。なお本機の電源を入れた直後は**TIME DISPLAY**画面が表示されます。

画面	呼び出しキー
TIME DISPLAY画面	TIME DISPLAYキー
TEMPO CHANGE画面	TEMPOキー
KEY & PITCH画面	KEYキー
B.E.E画面	BEEキー
EFFECTOR画面	EFFECTキー
LEVEL画面	LEVELキー
TUNER画面	TUNERキー
SETUP & MISC.画面	MISC.キー
PHONES VOLUME画面	PHONES VOLUME（+、−）キー

TIME DISPLAY画面

TIME DISPLAY画面は本機の電源を入れた直後に表示される画面です。



① VSA、TMP、KEY、BEEアイコン

それぞれ、VSA、テンポチェンジ、キーチェンジ、BEE機能が働いているときに反転表示になります。

② FXアイコン

ベースエフェクタが働いているときに点灯します。

③ 電源状態表示

電池使用時は電池の状態を表示します（→13ページ「電池で使用する」）。AC電源使用時は“ ”を表示します。

④ **走行モード**

走行中（▶）、一時停止中（❚❚）、早送り中（▶▶）、早戻し中（◀◀）にそれぞれのアイコンを表示します。停止中は何も表示されません。

⑤ **再生モード表示**

ループモード、リピートモード、シングルモードがオンのときにそれぞれのアイコンが表示されます（→26ページ「ループ再生する」）（→27ページ「リピート再生する」）（→26ページ「プレイモードを選択する」）。

⑥ **CD時間表示**

CDの時間を表示します。**SETUP & MISC.**画面で、時間モードを選択することができます。（→37ページ「時間表示を選ぶ」）

⑦ **CD内の再生位置**

CD内における現在の再生位置をバー表示します。

⑧ **CDのトータル時間**

CDのトータル時間が表示されます。

⑨ **CD時間表示モード**

CD時間表示のモードを表示します。

＊この画面から設定を行なうことはできません。

⑩ **TITLE**

CDテキストが記録されているCDを再生している場合、CDおよび再生中のトラックのタイトルが表示されます。

その他の画面

共通の表示

画面名、電源状態、CDプレーヤーの走行状態、トラック番号、およびCDの再生時間は、すべての画面に表示されます。

EFFECT画面、**LEVEL**画面、**TUNER**画面では、以下のように表示されます。その他の画面では**TIME DISPLAY**画面と同じように表示されます。（→20ページ「TIME DISPLAY画面」）

再生機能の表示（VSA、TMP、KEY、BEE）

TEMPO画面、**KEY & PITCH**画面、**B.E.E**画面、**SETUP & MISC.**画面では、**TIME DISPLAY**画面と同じように上部に各再生機能の状態が表示されます。

設定項目

各画面には設定項目があります。設定操作については次の「設定操作の基本」をご覧ください。

設定操作の基本

TIME DISPLAY画面以外の画面では、必要に応じて設定や選択を行なうことができます。必要に応じてCURSORキーとVALUEキーを使って設定や選択を行なうことができます。

● **設定項目を選択するには：**

CURSOR（▲、▼）キーを使います。

選択中の項目の値が反転表示になります。

EFFECTORおよびLEVEL画面では、CURSOR（◀、▶）キーを使って項目を選択する場合があります。

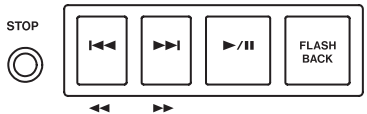
メモ

現在の項目より上に他の項目があるときは▲、下に他の項目があるときは▼が、画面右に表示されます。

● **値を選択するには：**

VALUE（+、−）キーを使います。選択した値（設定）は即座に反映されます（確定操作をする必要はありません）。

CDの基本再生



再生する

停止中または一時停止中、▶/❚❚キーを押すと再生を開始します。

停止する

再生中STOPキーを押すと停止します。

曲を選ぶ

停止中、再生中または一時停止中に ▶▶| ／ |◀◀ キーを押すと、次／手前の曲頭にスキップします。停止中に ▶▶| ／ |◀◀ キーを押したままにすると、トラックが増／減します。

サーチする

再生中や一時停止中に ▶▶| ／ |◀◀ キーを押したままにすると、早送り／早戻しサーチを行ないます。

少しだけ戻す（フラッシュバック機能）

再生中に少しだけ戻したい場合、FLASH BACKキーを押すと、設定した秒数だけ手前に戻って再生を行ないます。戻る秒数は初期設定で3秒ですが、以下の方法で1秒～5秒の間の任意の秒数に設定できます。

1 MISC.キーを押してSETUP & MISC.画面を表示します。

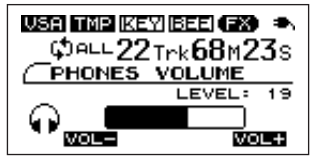
2 CURSOR（▲、▼）キーを使って、FLASH BACKを選択します。

3 VALUE（+、−）キーを使って、希望の秒数を設定します（1s～5s）。

音量を調節する

ヘッドホンでモニターする場合、PHONES VOLUME（+、−）キーを使って音量を調節します。

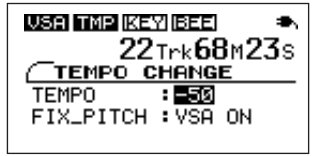
PHONES VOLUMEキーを操作すると、ディスプレイがPHONES VOLUME画面になり、画面上にヘッドホン出力レベルが数値とバーで表示されます。この画面は数秒後に自動的に以前の画面に戻ります。



テンポを変える

再生テンポを変えることができます。いちばん遅いテンポ設定では、元のテンポの半分のテンポになります。

1. TEMPOキーを押してTEMPO CHANGE画面を表示します。
2. TEMPOが選択されているとき、VALUE（+、−）キーを使って希望のテンポ（%）を設定します。



テンポ値を0以外に設定すると、テンポモードがオンになり、設定されたテンポに従って再生が行なわれます。画面上部の“TMP”が反転します。

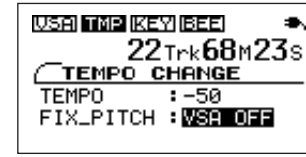
メモ

2つのVALUE（+、−）キーを同時に押すと、テンポ値が0にリセットされます。

テンポに伴って音程を変える

VSA機能（Variable Speed Audition）をオン（初期設定）にしておくと、テンポを変えたときに曲の音程が変わりません。通常のピッチコントロールのようにテンポを遅く（速く）するとキーが下がる（上がる）ようにするには、VSA機能をオフにします。

1. TEMPOキーを押してTEMPO CHANGE画面を表示します。
2. CURSOR ▼キーを使ってFIX_PITCHを選択し、VALUE（−）キーを使って“VSA OFF”に設定します。

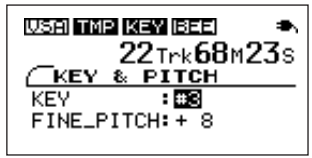


VSA機能をオフに設定すると、画面上部の“VSA”が反転表示から通常表示になります。

音程だけを変える

テンポを変えずに音程だけを変えることができます。

1. KEYキーを押してKEY & PITCH画面を表示します。
2. KEYが選択されているとき、VALUE（+、−）キーを使って半音単位で音程を上下します。



KEYでは、±6半音の範囲（♭6〜♯6）で音程を上下できます。

"0"以外に設定すると、音程を変えて再生が行なわれます。ディスプレイの"KEY"が反転します。

メモ

2つのVALUE（+、−）キーを同時に押すと、KEY値が0にリセットされます。

3. CURSOR ▼キーを使ってFINE_PITCHを選択し、VALUE（+、−）キーを使うと、音程を微調整することができます。

セント（半音の1/100）単位で音程を上下できます。

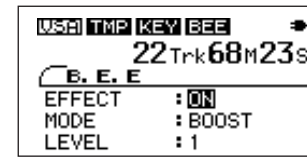
メモ

- 2つのVALUE（+、−）キーを同時に押すと、FINE_PITCH値が0にリセットされます。
- KEYの設定が"0"であっても、FINE_PITCHで微調整を行なうと、画面上部の"KEY"が反転します。

ベースの音をコントロールする（BEE)

BEE機能を使って、CDで演奏されているベースの音を増強したり、輪郭をはっきりさせたり、あるいは低減することができます。

1. BEEキーを押してB.E.E画面を表示します。
2. EFFECTが選択されているとき、VALUE（+、−）キーを使ってONに設定します。"ON"に設定するとBEE機能がオンになり、画面上部の"BEE"が反転します。



3. CURSOR ▼キーを使ってMODEを選択し、VALUE（+、−）キーを使って以下の中からBEE機能のモードを選択します。

- BOOST

  ベース音を増強します。

- ENHANCE

  ベースの輪郭をはっきりさせます。

- CUT

  ベース音を低減します。

4. CURSOR ▼キーを使って、BEE機能のパラメータ項目（BOOSTモードおよびENHANCEモード時はLEVEL、CUTモード時はFREQUENCY）を選択します。

   VALUE（+、−）キーを使って値を選択します。

ループ再生する

希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

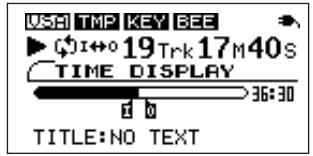
1. 再生中にループ再生を始めたいポイントでIN/OUTキーを押します。

   現在位置がIN（始点）として設定され、再生位置表示バーの下部の該当位置に“I”が表示されます。

2. ループ再生を終わらせたいポイントでIN/OUTキーを押します。

   現在位置がOUT（終点）として設定され、再生位置表示バーの下部の該当位置に“O”が表示され、IN-OUT間のループ再生が始まります。

   走行モード表示部の右に“↻I↔O”が表示されます。



- ループ再生を中止するには、LOOPキーまたはIN/OUTキーを押します。

   LOOPキーを押した場合、ループ区間の設定が残り、再びLOOPキーを押すと設定された区間のループ再生が始まります。

   IN/OUTキーを押した場合、ループ区間の設定（IN点とOUT点の設定）がキャンセルされます。

プレイモードを選択する

本機には以下の２つのプレイモードがあります。

ALLモード（初期設定）：

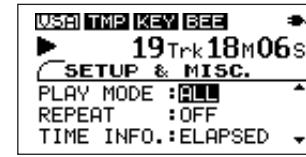
通常のモードです。いったん再生を始めると、ディスクの最後まで再生を行ないます。

SINGLEモード：

再生を始めた曲の最後まで再生します。

プレイモードの選択は以下の手順で行ないます。

1. MISC.キーを押して、SETUP & MISC.画面を表示します。
2. CURSOR ▲/▼キーを使ってPLAY MODEを選択し、VALUE（+、−）キーを使ってALLまたはSINGLEを選択します。



メモ

SINGLEを選択すると、時間表示部の左に“SINGLE”が表示されます。

リピート再生する

リピート再生モードでは、プレイモード設定に応じて全曲（プレイモードALL）または現在の曲（プレイモードSINGLE）を繰り返し再生します。

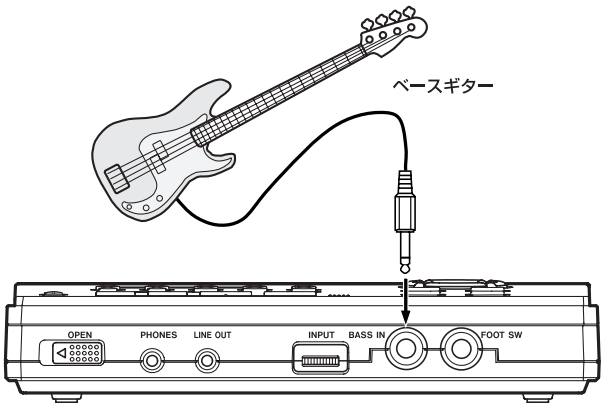
リピート再生を行なうには、ループ再生の始点（I)と終点（O）が設定されていないときにLOOPキーを押します。

メモ

- リピート再生のオン／オフは、SETUP & MISC.画面のREPEATを使って設定することもできます。
- プレイモードALLのリピート設定時は“ALL”が表示され、プレイモードSINGLEのリピート設定時は“1”が表示されます。

ベースを使う

本機にベースを接続することにより、ベースとCD再生音をミックスすることができます。またベースエフェクタも搭載していますので、本機をベースの練習用に使うこともできます。



入力レベルを調節する

BASS IN端子の左にあるINPUTボリュームを使って入力レベルを調節します。

メモ

LEVEL画面を使って、内蔵のベースエフェクタを通った後の信号レベルを調節することもできます。

LEVEL画面の下部に入力レベルメーターが表示されますので、目安にしてください。

モニター音量を調節する

CDの再生音量の調節と同じように、ヘッドホンでモニターする場合、PHONES VOLUME（+、−）キーを使って音量を調節します。（→24ページ「音量を調節する」）

メモ

LINE OUT端子経由でオーディオシステムやアンプ内蔵スピーカーを使ってモニターする場合は、外部機器で音量を調節してください。本機のLINE OUT端子の出力レベルは調節できません。

CDを再生しながら演奏する

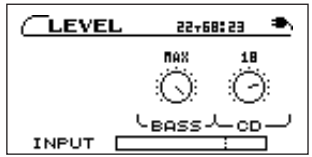
本機は、BASS IN端子からの入力信号とCD再生信号をミックスして、PHONES およびLINE OUT端子から出力することができます。

したがって、CDの再生に合わせてベースを演奏して「共演」することができます。

このとき以下の方法で、CD再生信号および入力信号のレベルを個別に調節できますので、好みのミックスバランスにすることができます。

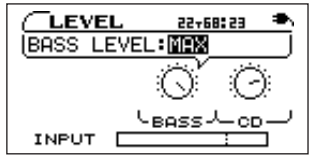
1. LEVELキーを押してLEVEL画面を表示します。

   BASS LEVELつまみとCD LEVELつまみが表示されます。それぞれ、BASS IN端子からの入力信号とCD再生信号のレベルを調節します。



2. CURSOR（◀、▶）キーを使って、操作するLEVELつまみを選択します。

   選択中のつまみのレベル値が「吹き出し」に反転表示されます。



3. VALUE（+、−）キーを使ってレベルを調節します。

   値を変えると、それに伴ってLEVELつまみアイコンが回転します。

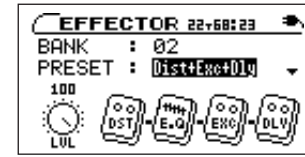
メモ

画面下部のINPUTメーターにはBASS IN入力信号の入力レベルが表示されます。

内蔵エフェクタを使う

本機にはベース用マルチエフェクタが内蔵されています。

EFFECTキーを押すとEFFECTOR画面が表示されます。



上図のようにEFFECTOR画面にはBANKとPRESETのほかに、LVL（レベル）つまみ、ベース用の最大３台のエフェクトモジュールの各アイコンが表示されています。ベースアイコン以外はすべて、設定項目を持ちます。

EFFECTOR画面での項目選択にはCURSOR キーを使いますが、LVLつまみやエフェクトモジュール間の移動を行なうときはCURSOR（◀、▶）キーを使います。LVLつまみやエフェクトモジュールを選択すると、設定項目が下図のように「吹き出し」に表示されます。「吹き出し」で設定項目の選択を行なうにはCURSOR（▲、▼）キーを使います。値の設定はVALUE（+、−）キーを使って行ないます。

BANK

バンク01～10、またはBYPASSを選択します。

各バンクごとにプリセットエフェクトを設定することができます。よく使うエフェクトを各バンクに設定しておくことにより、バンクを切り換えるだけで即座に希望のエフェクトを呼び出すことができます。

エフェクタを使わないときはBYPASSを選択します。

PRESET

最大4台のエフェクトモジュールを使ったエフェクトプリセットの中から、希望のプリセットを選択します。プリセット毎にエフェクトモジュールの組み合わせが異なります。

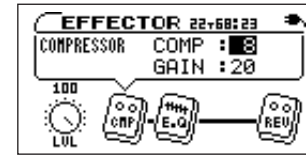
各プリセット毎のエフェクトモジュール組み合わせは「エフェクタプリセット一覧」（39ページ）をご覧ください。

LVLつまみ

エフェクト出力レベルを調節します。CURSOR（◀、▶）キーを使ってLVLつまみを選択するとレベル値が「吹き出し」に反転表示され、VALUE（+、−）キーを使ってレベル設定（0～100）することができます。

エフェクトモジュール

各モジュールアイコンを選択すると、「吹き出し」が表示され、この中でパラメータの設定を行ないます。パラメータ項目はモジュールタイプによって異なります。モジュールタイプ毎のパラメータの詳細は「エフェクトモジュールのパラメーター覧」（40 ページ）をご覧ください。



メモ

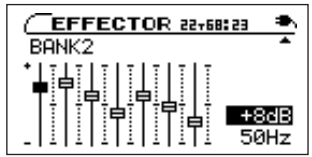
LVLつまみ、および各エフェクトモジュールのパラメータにカーソルがあるときは、CURSOR（◀、▶）キーを使ってモジュールを選択できます。CURSOR（▲、▼）キーを使うとパラメータを選択できます。

またEQモジュールのみ、表示／設定が他のモジュールと異なりますので、以下に説明します。

EQモジュール

EQモジュールを選択すると、現在のEQの設定（BYPASS,あるいはON）が表示されます。この状態では、EQモジュールのON/BYPASSの設定がVALUE（+、−）キーで可能です。

CURSOR（▼）キーを押すと7バンドグラフィックEQ画面が表示されますので、それぞれの設定を確認しながら選択することができます。

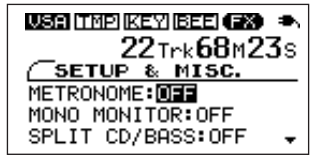


1. CURSOR（◀、▶）キーを使って中心周波数（50Hz、120Hz、400Hz、800Hz、2kHz、4.5kHzまたは8kHz）を選択します。
2. VALUE（+、−）キーを使ってブースト／カット量を設定します（− 18dB～+ 18dB）。

メトロノームを使う

本機はメトロノームを内蔵していますので、ベースの練習時などに使うと便利です。

1. MISC.キーを押してSETUP & MISC.画面を表示します。



2. CURSOR（▲、▼）キーを使ってMETRONOMEを選択します。
3. VALUE（+）キーを使ってONに設定します。

   最後に行なったテンポ／ビート設定（あるいは初期設定）でメトロノームがスタートします。
4. ONにするとメトロノーム設定項目（TEMPO、BEAT）が表示されます。CURSOR（▲、▼）キーを使って設定項目を選択し、VALUE（+、−）キーを使って値を設定します。

メモ

CD再生中にメトロノームをONにするとCD再生が停止します。

TEMPO

テンポを設定します。40～220の範囲で設定できます。

BEAT

拍子を設定します。拍子は2～6の範囲で設定できます。

“0”に設定するとアクセントがありません。

メモ

テンポと表示の設定は電源をオフにしても記憶され、次回メトロノームを使うときに反映されます。

メモ

BEATを選択しているときにCURSOR ▼キーを押すと、MONO MONITORが選択され、メトロノーム設定項目の表示が消えます。CURSOR ▲キーを押すと再びメトロノーム設定項目が表示されます。

メトロノームを止めるには

以下のいずれかの操作を行ないます。

- STOPキーを押す。
- SETUP & MISC.画面のMETRONOMEをOFFに設定する。

メモ

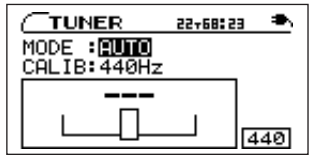
メトロノームを使っているときにCDプレーヤーの操作キーを押すと、メトロノーム機能がオフになります。

チューナーを使う

本機はチューナー機能を内蔵しています。このチューナーを使ってベースのチューニングができる以外に、チューニング用の任意の音を外部に出力することができます。

まず最初にチューナーモードを選択します。

1. **TUNER**キーを押して**TUNER**画面を表示します。



2. **MODE**の値が選択されているとき、**VALUE**（+、−）キーを使って以下の中からチューナーモードを選択します。

AUTOモード（クロマチックチューナーモード）

BASSモード（ベースチューナーモード）

OSC.モード（オシレーターモード）

以下に各モード別に説明します。

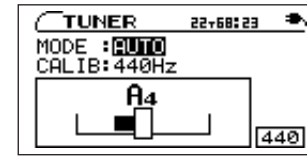
AUTOモード（クロマチックチューナーモード）

通常のモードです。チューニングする弦を変える毎に設定を変える必要がありません。画面（左図参照）にはチューニングメーターと入力信号の音程が表示されます（入力がないときは“---”表示）。

1. **BASS IN**端子にベースを接続し、チューニングしたい弦を弾くと、もっとも近い音名がメーター上部に表示されます。
2. 合わせたい音名が表示されるよう、ラフにチューニングを行ないます。

メーター中央部が点灯するようにチューニングします。

チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。



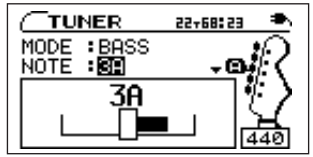
メモ

CALIBを選択し、**VALUE**（+、−）キーを使ってA音の基準周波数を**435**Hz～**445**Hzの範囲で設定します。

この設定値はすべてのチューナーモードに共通です。

BASSモード（ベースチューナーモード）

チューニングする弦を変える毎に設定を変えます。



1. CURSOR ▼キーを使ってCALIBを選択し、VALUE（+、−）キーを使ってA音の基準周波数を435Hz～445Hzの範囲で設定します。

   この設定はすべてのチューナーモードに共通です。

2. CURSOR ▲キーを使ってNOTEを選択し、VALUE（+、−）キーを使ってチューニングする弦（1G、2D、3A、4E、5B）を選択します。

   選択中の弦の名称がメーター上部に表示されます。（同時に画面右側のギターペグ（糸巻き）にも表示。）

3. メーター中央部が点灯するようにチューニングします。

   チューニング方法は前述のAUTOモードと同じ方法です。

OSC.モード（オシレーターモード）

内蔵のオシレーターを使って、3オクターブ（C2音～B4音）の範囲のサイン波をPHONES端子およびLINE OUT端子から出力することができます。

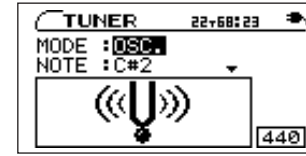
オシレーターモードには以下の4つの設定項目があります。CURSOR（▲、▼）キーを使って項目を選び、VALUE（+、−）キーを使って値を選択します。

NOTE

発生する音（C2音～B4音）を選択します。

OUT

オシレーター音をPHONES端子およびLINE OUT端子から出力するかしないかを選択します。ONに設定すると、音叉が振動しているような表示になります。



LEVEL

発生音の出力レベル（0～100）をVALUE（−、+）キーで調節します。

CALIB

A音の基準周波数を435Hz～445Hzの範囲で設定します。

この設定値はすべてのチューナーモードに共通です。

フットスイッチを使う

フットスイッチを使って、さまざまな本体動作を行なうことができます。

フットスイッチで実行できる動作は、フラッシュバック、早戻し、早送り、エフェクトバンク切換、エフェクトのオン／オフのいずれかです。

接続する

本体前面のFOOT SW端子に２極のモーメンタリーフットスイッチ（TASCAM RC-30Pなど）を接続します。

接続後、MISC.キーを押してSETUP & MISC.画面を表示し、必要に応じて以下の設定を行ないます。

動作を設定する

CURSOR（▲、▼）キーを使ってFOOT FUNCを選択し、VALUE（+、−）キーを使って以下の中から希望の動作を選択します。

FLASH： FLASH BACKキー操作と同じ
REW： ⏮/◀◀キー操作と同じ
FF： ▶▶⏭/▶▶キー操作と同じ
BANK： エフェクトバンクの切換
EFFECT：エフェクトのオン／オフ

極性を設定する

本機は、フットスイッチの極性がTASCAM RC-30PをNORMALとしてDEFAULT設定されています。お手持ちのモーメンタリーフットスイッチに合わせて極性を反転させることができます。

CURSOR（▲、▼）キーを使ってFOOT TYPEを選択し、VALUE（+、−）キーを使ってご使用のフットスイッチに合わせてNORMALまたはINVERTを選択します。

いろいろな設定を行なう

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定を行なうことができます。

以下の設定項目はすべてSETUP & MISC.画面内の項目です。

MISC.キーを押してSETUP & MISC.画面を表示し、CURSOR（▲、▼）キーを使って項目を選び、VALUE（+、−）キーを使って値を選択します。

モノラルでモニターする

PHONES端子およびLINE OUT端子からの出力信号をモノラルにすることができます。

MONO MONITORの設定を以下の中から選択します。

OFF：通常のステレオモニターです。（初期設定）

L＋R：左右チャンネルの信号がミックスされて出力されます。

L：左チャンネルの信号が両チャンネルから出力されます。

R：右チャンネルの信号が両チャンネルから出力されます。

CD再生音とベース音を左右に分離する

PHONES端子およびLINE OUT端子から出力されるCD再生信号およびベース信号を左右に分離することができます。

SPLIT CD/BASSの設定をONにすると、CD再生信号がLチャンネルからモノラルで出力され、BASS IN端子からの入力信号がRチャンネルから出力されます。

時間表示を選ぶ

ディスプレイに表示されるCD時間表示の内容を選ぶことができます。

TIME INFOの設定を以下の中から選択します。

ELAPSED：現在のトラックの再生経過時間を表示します。

REMAIN：現在のトラックの残り時間を表示します。

TOTAL REMAIN：ディスク全体の残り時間を表示します。

メモ

TIME DISPLAY画面には選択中の時間表示モード名が表示されます。

ディスプレイのコントラストを変える

まわりの明るさ等に応じて、ディスプレイのコントラスト（濃淡）をお好みにより変えることができます。

CONTRASTの設定値を1～10の中から選びます。数値が大きいほどコントラストが強くなります。

すべての設定を元に戻す

⏮、⏭キーを同時に押しながら本機の電源をオンすると、INITIALIZE画面が起動します。

起動後、画面の指示に従いPLAYキー（▶/⏸）を押すことにより、エフェクトパラメータ、各種再生設定などをお買い上げいただいた状態に戻すことができます。

仕様

CDプレーヤー

対応CDフォーマット：	CD-DA（オーディオCD）、CD-TEXT
対応ディスク：	12cm/8cm CD、CD-R、CD-RW
A/Dコンバーター：	24ビット
D/Aコンバーター：	24ビット
DSP内部演算：	32ビット
サンプリング周波数：	44.1kHz
量子化ビット数：	16ビットリニア
周波数特性：	20～20,000Hz＋0.5/－5dB
SN比：	85dB
ダイナミックレンジ：	90dB
高調波歪率：	0.05%以下（200Hz—20kHz）
チャンネルセパレーション：	80dB

オーディオ入出力定格

BASS IN端子：
- コネクタ：6.3 φモノラルホンジャック
- 基準入力レベル：－15dBV
- 最大入力レベル：＋6dBV

LINE OUT端子：
- コネクタ：3.5 φステレオミニジャック
- 基準出力レベル：－10dBV
- 最大出力レベル：＋6dBV

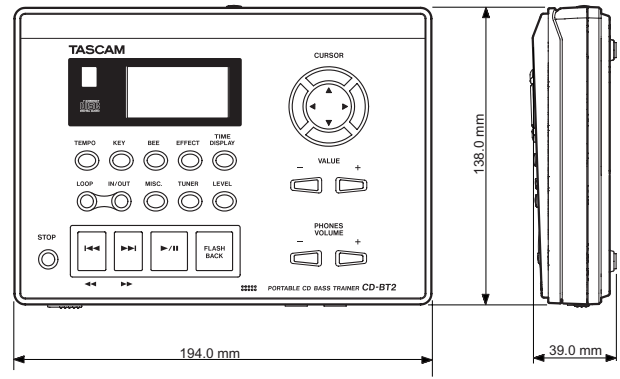
PHONES端子：
- コネクタ：3.5 φステレオミニジャック
- 最大出力：15mW＋15mW（32 Ω）

一般

電源：	単三形電池×4、 またはDC-5V（別売ACアダプターPS-P520が必要）
消費電力：	2.5 W（ACアダプター使用時）
最大外形寸法：	194（幅）×39（高さ）×138（奥行）mm（W×H×D）
質量：	550g（電池含まず）
付属品：	取扱説明書、トラブルシューティングガイド、保証書

- 仕様および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。
- 取扱説明書のイラストなどが一部製品と異なることがあります。

寸法図



エフェクタプリセット一覧

プリセットナンバー	プリセットネーム
1	Clean CHO
2	FAT
3	Fusion
4	Rock
5	Tube Tone
6	Heavy Rock
7	Clean Solo
8	Arena Rock
9	Earthquake
10	Funk
11	Autowah + Delay
12	Exciter
13	Exciter + Delay
14	Clean Cmp
15	Cmp + Delay
16	Cmp + Rev
17	Cmp + Fla
18	Cmp + Pha
19	Cmp + Cho
20	Cmp + Wah
21	Cmp + Oct
22	Cmp + Tec
23	Cmp + Exc

プリセットナンバー	プリセットネーム
24	Cmp + Fla + Dly
25	Cmp + Pha +Dly
26	Cmp + Cho +Dly
27	Cmp + Wah +Dly
28	Cmp + Oct +Dly
29	Cmp + Tec +Dly
30	Cmp + Exc +Dly
31	Distortion
32	Dist + Dly
33	Dist + Rev
34	Dist + Fla
35	Dist + Pha
36	Dist + Cho
37	Dist + Wah
38	Dist + Tec
39	Dist + Exe
40	Dist + Fla + Dly
41	Dist + Pha + Dly
42	Dist + Cho + Dly
43	Dist + Wah + Dly
44	Dist + Tec + Dly
45	Dist + Exc + Dly

エフェクトモジュールのパラメーター一覧

下表は本機に実装されたエフェクト・プリセットを構成する各エフェクト・モジュールの特徴について説明したものです。個々のエフェクトの中には単独ではなく他のモジュールと組み合わせて使用することで良い効果を得られる場合があります。各モジュールごとのパラメータを調整してもイメージしたサウンドが得られないときには、よりイメージに合うプリセットを探してみることをお勧めします。

モジュール	効　　果	パラメータ	パ ラ メ ー タ 内 容	値　域
DISTORTION (DST)	ベース音を深く歪ませ、輪郭感や厚み、サスティーン効果を得ることができます。	DIST	音の歪み具合を調整します。(数字が大きいほど強くかかります。)	0～20
		TONE	音色を調整します。	0～20
COMPRESSOR (CMP)	ベース音のピークを抑えて音量を揃えサスティーン 効果を得ることができます。	COMP	ピークを抑える具合を調整します。(数字が大きいほど強くかかります。)	0～30
		GAIN	出力の音量を調.整します。	0～20
FLANGER (FLA)	遅れ時間を周期的に変化させた音を原音にミックスすることで、大きなうねりのあるジェットマシーンサウンドを得ることができます。	SPD	うねりの速さ調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
PHASER (PHA)	位相を周期的に変化させた音を原音にミックスすることで、うねりのあるフェイジングサウンドを得ることができます。	SPD	原音に加算する高音成分を調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
CHORUS (CHO)	遅延させた音を揺らして原音にミックスすることで、音に広がりや厚みを与えます。	DPTH	コーラス効果の深さを調整します。	0～20
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
AUTOWAH (WAH)	演奏の強弱に応じて、ワウ効果を得ることができます。	SENS	ピッキングに対するワウの反応感度を調整します。	0～30
		TYPE	フィルタタイプを選択します。(0:LP / 1:BP / 2:HP)	0/1/2
OCTAVER (OCT)	1 オクターブ下/1 オクターブ上の音を原音にミックスすることで、厚みのあるオクターブサウンドを得ることができます。	OCT	1 オクターブ下(DN)/1 オクターブ上(UP)を選択することができます。	UP/ DOWN

モジュール	効　　果	パラメータ	パ ラ メ ー タ 内 容	値　域
TECHNO (TEC)	フィルターの値をランダムに変化する独特なサウンドです。	SPD	変化の速さを調整します。	0～20
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
REVERB (REV)	残響音を与えることで空間的広がりを表現することができます。	TIME	残響の持続時間を調整します。	0～25
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
DELAY (DLY)	山びこのような効果を得ることができます。	TIME	ディレイタイムを調整します。	0～99
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
Exciter (EXC)	ベース音に倍音成分を付加することで音の輪郭をはっきりさせ、きらびやかなサウンドを得ることができます。	FREQ	付加する倍音成分の周波数を調整します。	0～30
		MIX	エフェクト効果の量を調整します。	0～20
7 Band EQ (EQ))	特定の周波数の音をブースト/カットすることができます。	50 120 400 800 2k 4.5k 8k	特定の周波数のブースト/カット量を調整します。	−18～+18

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム営業技術までご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～12:00/13:00～17:00です。

タスカム営業技術　〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3

電話：0422-52-5106 / FAX：0422-52-6784

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く 10:00～17:00です。

ティアック修理センター　〒190-1232 東京都西多摩郡瑞穂町長岡2-2-7

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
携帯電話・PHS・自動車電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-556-2280 / FAX：042-556-2281

ティアック株式会社

〒180-8550 東京都武蔵野市中町 3-7-3
http://www.tascam.jp/

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in China